



# 横浜陶芸友の会だより

第170号  
平成30年  
4月1日発行

## 「四〇回記念作品展に向けて」

横浜陶芸友の会 会長 高橋光男

この寒い時期に作陶の構想を練り、暖かくなるのを待っていると思いますが会員の皆様いかがお過ごしですか。

39回目の作品展も盛況の内に終わることができましたことは、偏に会員の皆様の努力と協力の賜物と思います。

現代は「個の時代」だと声高に言われていますが、本当にそうでしょうか？

ただ一人、自分だけの能力で叶うことは知れています。

「個」ではなく「チーム」なのです。

科学の世界では、熱(エネルギー)がなければ化学反応は起きないことはだれでも知っています。だから熱を与え合うチーム(仲間)が重要なのです。

仲間を集めるためには①できないことがあるから助けてくれと自分の弱点を言う。

②いつでも笑顔でいる。③責任はすべて自分が持つと約束をする。

それぞれが熱を与え合い化学反応で素晴らしいものができればよいのではないのでしょうか。第40回作品展に向けて進みましょう！

### 総務部より

#### 「役員会の報告」

○2月17日(土) 15時30分より

会長・各役員8名で話し合いが行われました。

(事業部より) ・作品展の報告

(専修部より) ・秋期焼成会

(飛びカンナ) 予定

(広報部より) ・「友の会たより」 3月末発行予定

(会計部より) ・年会費納入の確認

※各部3月末締めで会計報告の提出

(総務部より) ・「友の会たより」の発送

※退会を申し出された方

・小池敏子さん ・根岸あや子さん

・牛田茂子さん ・信岡美野里さん

(その他)

・「第40回記念作品展」平成31年1月予定

・今後の「友の会」の在り方

#### ○次回の役員会

4月14日(土) 15時30分より

(杉田地区センター4階 集会室A)

・平成30年度の総会に向けての準備

5月26日(土) 15時より

(会場) 杉田地区センター4階

(最寄駅) 京浜急行杉田・JR新杉田

※各行事についての、御意見・ご要望等を話し合う良い機会ですので、多くの方がご出席されることを楽しみにしております。

#### 【総会のお知らせ】

#### 第三十九回「作品展」 事業報告

会員皆様方のご協力をおもちまして、「第三十九回作品展」も無事、終了することができました。ありがとうございます。

今年度は、搬入集合時間を30分遅らせた結果、「ラッシュ時間を避けられ良かった。」との声を聞くことが出来ました。

会も高齢化が進み退会する方も増え出展者数が昨年に比べ、更に少なくなりました。

来年度は節目の「第40回作品展」を迎えます。皆様元気で作陶に励み、出展され、盛り上がることを期待しています。

#### 【事業報告】

(会期)平成30年1月16日(火)～21日(日)







「花器」



「ぐい呑み」

友達が飾っていた花器に「素敵」と感動し、真似をして作ってみました。釉薬を掛け焼成したら細かな彫りの線も消え、がっかり。感動した作品とは程遠く釉薬を掛けず焼き締めがよかったかな？と、後悔。

来年は、あこがれた「あの花器」に少しでも近づきたいなあ。再挑戦します。



「信岡美野里」

【70の手習い】

プールに通い始めた自分にエールを送るつもりで作ってみました。これ等は単独では立たないので貼り付けて、色は下絵具です。



作品「70の手習い」「干支・戌」

【干支】

今年もいつもの如く作りました。私の干支作りも、もう2廻りしてしまいました。こんなものでも12年前より改良を：：と思うのですが、それがなかなか難しい。



「今年一品」

吉良 謙

電気窯で焼成していますが、穴窯で焚いた様な変化を付けたくて、鞘に入れ炭化焼成をしたところ、二度ばかり淡い桃色の変化が一部に出て、今度の抹茶碗でも同じ焼き上がりを目指して炭化焼成をしましたが、巧く出来ませんでした。



「抹茶碗」



「ぐい呑み」



「織部釉の鉢」「茶碗」「ぐい呑み」

期待外れでガッカリしましたが、唐津の中里さんの「焼き物は窯から出した後も変わるものなのですよ」との言葉を思いだし、その内どこか良い所に気が付くだろうと、暫く使ってみようと思います。

【窯の泪】

吉村希世子

穴窯焼成のこの花器は、修善寺の窯で8日間焼成、窯出しの折2か所に飛んでまた灰が白く貼り付いていました。



「窯の泪」と「ぐい呑み」



朝鮮唐津のような涙文様ではないけれど珍しい文様が出来ましたので「窯の泪」と銘名しました。

黒泥の「ぐい呑み」にも同様の現象が出来てちよつとうれしい気分の作品となりました。



「井戸茶碗」「象嵌壁掛け」「角皿」「粉引き鉢」「象嵌皿」「練込み茶碗」「コーヒーカップ・ソーサー」 他

今年の一品「片口」 牛田茂子

残念ながら一品を手にした写真だけで、お話を伺うことができませんでした。手にしている作品は中に黒天目、外に白萩を掛けた「片口」作品です。



その他の作品は

「大皿」白萩 「大皿」乳濁

「中皿」白萩 「ぐい呑み」黒天目・白萩

「片口」黒天目・白萩 「小鉢」 「花瓶」



「作品の制作等についての発表会」

今年度は、高橋会長の肝いりで「作品の制作等についての発表会」が土・日の二日間で行われました。

会場にいた方たちも制作者の説明を聞きながら色々な質問や陶芸談義に花を咲かせ、和気あいあいと、楽しい時を過ごせました。

発表してくれた方たちの貴重なお話を、ありがとうございます。ございました。また、来年度が楽しみです。

発表してくれた方は

「本橋昭彦」さん

「吉川 勝」さん

「逢阪博樹」さん

「鈴木貴久」さん でした。



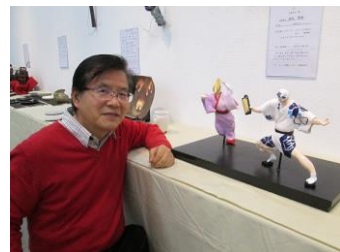
「今年度の作品」

逢阪博樹

阿波踊りは、昨年に次回の挑戦はこれにします。と、公言した為チャレンジしました。



「阿波踊り」



本当は五〇人位の「踊り子連」を考えていたのですが、作る内に踊り子が立たないことが判明。結果、男女一対だけとなった次第です。もっと躍動感あるものを作りたいのですが、横にして作るしかなくイメージとは違ったものになってしまいました。焼くのも横しかなく、とても釉薬を掛けて



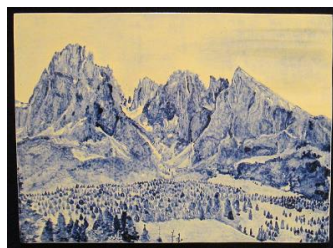
焼くことも出来ず素焼きに絵具仕上げです。完成品も当然立つはずは無く、空気穴に芯棒を入れてどうにかこの状態に落ち着きました。発想はともかく自分の力量を確りと認識せねばと反省。

さて、次回は何にしようか？ ガラス絵にしよう。

今年も気持ちばかりが先行しそうです。

（発表会より抜粋）

毎年出している陶板の絵は、私が旅行に行った時の思い出として作っています。この山は、イタリア旅行の時の思い出です。私は、絵心が無いので写真をベースに素焼きをした陶板に、鉛筆で濃淡を付けながら下書きし、その上に呉須をのせています。絵を描いているのではないのでポンヤリした物になっていきます。



色は呉須一色で筆も一本しか使っていません。濃淡は、呉須を溶いた小さなカップを斜めにし、濃い部分は沈殿した底の所で淡い部分は上の薄い所を使い、白い部分は塗っていない陶板の地肌です。

「陶板が歪まないようにするコツは」とよく



